

重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

目標

親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を
支援する

重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

目 標

親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支援する

現状と課題

① 親が感じている「育てにくさ」について

子育てをする中で、親が「育てにくさ」を感じる場合があります。乳幼児健康診査時の「すこやか親子21アンケート」によると、約2～3割の親が「子どもを育てにくいといつも感じる」または「時々感じる」と答えており、子どもの年齢が上がるほど育てにくさを感じる親が多くなっています。

すこやか親子21アンケート結果

質問内容	4か月児 健康診査	1歳6か月児 健康診査	3歳児 健康診査
子どもに対して、育てにくさを感じているか 「いつも感じる」「時々感じる」	18.8%	26.8%	35.4%
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っているか 「いいえ」	13.1%	17.7%	15.6%
子どもの社会性の発達過程を知っている	90.1%	93.2%	84.9%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	97.4%	74.1%	70%

(平成27年度 乳幼児健康診査より)

また、「育てにくさを感じる」と回答した人に対して、「育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決方法を知っていますか」との問いでは、約2割の親が「いいえ」と答えています。

子どもの年齢が上がるにつれ、精神、運動、情緒の発達が著しくなり、それに伴い育児の悩みも増加すると考えられます。「育てにくさ」の要因には、発達障害等子どもの要因だけでなく、親の経験不足や育児支援の不足、心身状態の不調、親子を取り巻く環境等様々な要因があります。

親が感じている「育てにくさ」は様々であり、親の気持ちに気付き、寄り添う姿勢で支援していくことが必要です。また、親が育てにくさを感じ悩んだ時に、気軽に相談することができるよう、相談窓口や子育て支援体制の周知を図っていきます。

また、アンケート結果によると、「子どもの社会性の発達過程について知っている」と答えた人は、子どもの年齢が上がるにつれて減少していました。同

じように、「ゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか」という問いでも、年齢が上がるほど減少する傾向がみられます。

「歩く」「話す」等の発達に比べると、社会性の発達はあまり知られていませんが、子どもの発達の特性を理解する一歩となることから、社会性の発達に関する知識の普及を図ることが必要です。親が子どもの発達を理解し、見通しが持てるように、育児に関する知識や情報を提供していくことが必要です。

また、親子が安心して過ごせるような地域づくりを目指し、地域の人が育てにくさを感じている親や育てにくさを持つ子どもについて理解できるように関係機関と連携して取り組んでいきます。

② 相談体制の充実

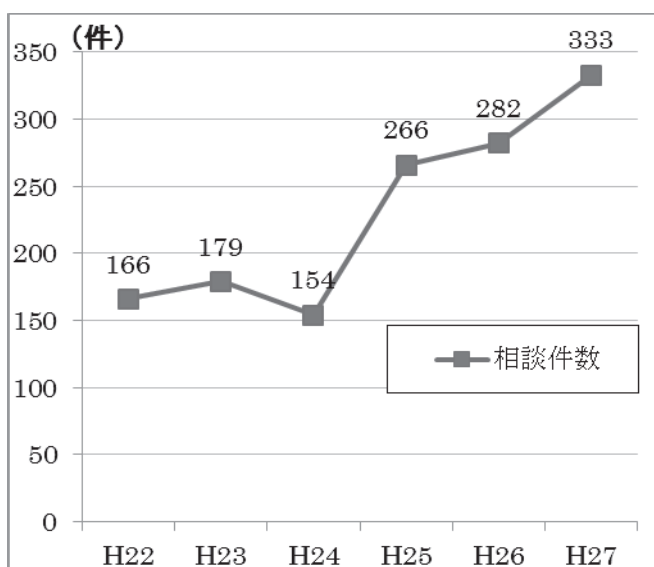
乳幼児健康診査で経過観察となった子どもや、子育てに不安を感じている人の相談の場として、すこやか相談を実施しています。

相談件数の増加に伴い、平成25年度からは相談日を増やす等の対応をしています。相談の内容も多様化しており、子どもの発達と発育についての相談が増えています。問題の内容に応じて相談が受けられるように、市の保健師・管理栄養士・心理相談員のほか、作業療法士、言語聴覚士等の相談日を設けています。

また、精密検査や療育の必要な子どもには、県北健康福祉センターの乳幼児二次健康診査や専門医療機関等の紹介を行っています。

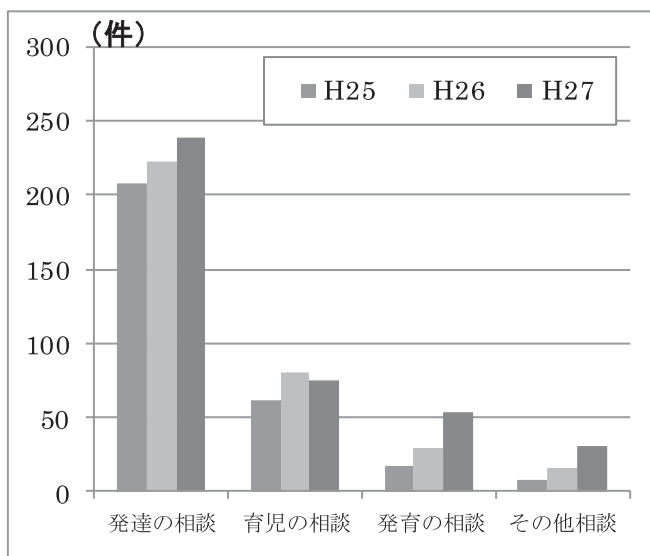
親が育てにくさを感じた時に専門家に相談できる体制を充実させていくことが必要です。

すこやか相談の推移



(大田原市政年報より)

すこやか相談の内容



(大田原市政年報より)

③ 5歳児健康診査

5歳児健康診査は、集団生活場面での行動・発達の問題を発見し、スムーズな就学につなげることを目的として、関係機関と連携して実施しています。

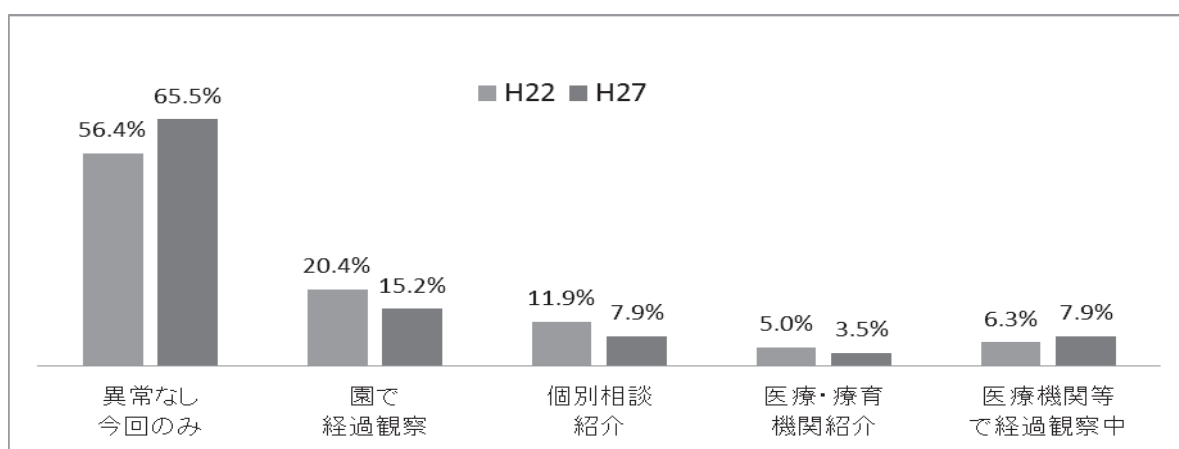
乳幼児健康診査やかかりつけ医、各園等から専門医療機関を紹介され、5歳児健康診査時点ですでに医療・療育機関を受診しているケースが多くなっており、適切な時期に医療・療育機関につながっていることが伺えます。

平成27年度の5歳児健康診査の結果では、平成22年度に比べ、「異常なし」「今回のみ」が1割近く増えています。これは保育園・幼稚園で、きめ細かな対応ができる体制が整ってきたためと考えられます。

子どもたちにとって1日の大半を過ごす園での支援が重要であるため、保育士・教諭の力量形成を図るために、実践の場面で子どもたちの対応について研修できるような体制を工夫しています。

5歳児健康診査実施後おおむね半年後に事後確認、年長児において市教育委員会による年長児巡回相談を実施し、経過観察になった子どもの状況を確認し、必要な支援につなげています。また、その子に合った適切な配慮や支援が受けられるように、就学先の学校への引き継ぎ方法を検討しています。これにより、就学に向け一貫した支援体制が整いつつあります。

5歳児健康診査の結果の比較（平成22年度・平成27年度）



（平成22年度、平成27年度 大田原市母子保健事業実績報告より）

④ 途切れない支援

発達支援のための療育については、国際医療福祉リハビリテーションセンター、国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター、那須特別支援学校「ことり教室」等、市内・近隣の医療・療育機関に恵まれていることから、適切な時期に療育指導が受けられるようになってきました。児童発達支援として利用できる事業所も増えてきています。また、家庭・園・医療機関・市の連携についても整いつつあります。

就学後、卒業後も途切れない支援を目的に、平成27年度から「障害児支援連携事業」を実施しています。療育手帳取得時の面接、福祉サービス利用時のモニタリングに保健師が同行する等、子どもの特性や親の思い、家庭環境等を把握し、必要に応じて学校・医療・福祉等と情報を共有し、支援していくことを目指しています。

課題と施策

課 題	施 策
<p>乳幼児期において約2～3割の親が、子どもに対して育てにくさを感じている。そのうちの約2割の親は相談先等を知らない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親の感じている「育てにくさ」の要因は様々であり、健康診査では育児アンケート等を活用して親の悩みや問題を把握し、寄り添う姿勢で相談等の支援をしていきます。 ・親が子育てで悩んだ時に、気軽に相談できるよう育児に関する相談窓口の周知を行います。
<p>「子どもの社会性の発達過程について知っている」「ゆったりした気分で過ごせている」親は、子どもの年齢が上がるにつれて減少している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親が子どもの発達を理解し見通しが持てるように社会性の発達全般に関する知識の普及・啓発を行います。 ・親子が安心して過ごせるように、子育て支援サービスに関する情報提供を行います。 ・地域の人が、育てにくさを持つ子どもについて理解できるよう、関係機関と連携して取り組んでいきます。
<p>子どもたちにとって、1日の大半を過ごす保育園・幼稚園での支援が重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園における発達支援の充実のため、保育士・教諭の力量形成のための研修会等を実施します。 ・地域において本人の特性と成長に応じた支援が受けられるように、家庭・園・市・医療機関等の連携を強化していきます。
<p>発達支援に係る関係機関との連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・途切れない一貫した支援が受けられるように、子どもの状態や、療育内容等支援の情報を関係機関で共有できるシステムを構築していきます。
<p>就学後、卒業後の途切れない支援と、自立に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や保護者に相談窓口を周知するとともに、各関係機関が連携体制を強化し、自立に向けた途切れない支援を目指します。

評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. ゆったりとした気分で 子どもと過ごせる時間 がある母親の割合	4か月児健康診査 82.4% 1歳6か月児健康診査 75.1% 3歳児健康診査 70%	増加	増加
2. 育てにくさを感じてい る親の割合	4か月児健康診査 19% 1歳6か月児健康診査 26.8% 3歳児健康診査 35.4%	減少	減少
3. 育てにくさを感じた時 に対処できる親の割合	4か月児健康診査 86.9% 1歳6か月児健康診査 82.3% 3歳児健康診査 84.4%	増加	増加
4. 子どもの社会性の発達 過程を知っている親の 割合	4か月児健康診査 90.1% 1歳6か月児健康診査 93.2% 3歳児健康診査 84.9%	増加	増加

第5章 計画の推進体制

1 推進体制の充実

本計画の基本理念である「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育てできるまち おおたわら」を実現するためには、行政及び関係機関・団体等が相互に連携・協力し、各種事業を総合的かつ効果的に推進していく必要があります。

大田原市母子保健連絡協議会において、地域課題を分析・共有し、定期的に協議する場を設け、市民の母子保健の向上のために、本計画を推進してまいります。

2 「愛あいプラン」にかかわる意識啓発、情報提供の推進

本計画の推進にあたっては、関係機関のみならず、広く市民に計画の内容を周知、普及することによって、親子をとりまく現状と課題を共有し、それぞれが担うべき役割について認識を深めていただく必要があります。

また、「愛あいプラン」にかかわる情報をタイムリーにわかりやすく発信することが必要です。そのため、市の広報誌「広報おおたわら」および市ホームページ、母子保健事業を活用してのPR等、計画の普及啓発、情報提供を推進します。

3 子育てにやさしいまち、おおたわらの推進

子育て家庭の6割は核家族という現状です。また、産前から生活環境や心身の健康等の不安定さを抱える方が増加し、母と子が孤立しやすい状況があります。本市のすべての子どもが健やかに育つよう、子育てにかかわる関係者のみならず、地域の人たちが見守り、声を掛け合う中で子育てができる体制の整備を推進します。

4 地域ぐるみの生活習慣病予防

本市はすべてのライフステージにおいて、生活習慣病が課題になっています。

すべての子どもが健康に生き生き育つこと、そのためには地域全体の生活習慣や健康に関する考え方が大きくかかわってきます。親や祖父母が健康で生き生き活動できることが子どもたちの未来を保障していきます。母子保健の向上を目指して、地域ぐるみの健康づくりを推進します。

5 進捗管理

母子保健連絡協議会において、年度ごとに母子保健事業の実績等の地域課題を分析・共有し、計画の推進に努めていきます。

第6章 評価指標一覧

指標名		ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインの データソース	
基盤課題 A	1 全出生数中の低出生体重児の割合	10.4%	減少	減少	大田原市保健事業実績報告書	
	2 妊娠中の妊婦の喫煙率	3.4%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問②)	
	3 育児期間中の両親の喫煙率	<母> 4か月児健診 4.6% 1歳6か月児健診 8.1% 3歳児健診 13.0% <父> 4か月児健診 46.9% 1歳6か月児健診 13.0% 3歳児健診 45.7%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月、1歳6か月、3歳)	
	4 妊娠中の妊婦の飲酒率	1.10%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)	
	5 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健診 98.8% 2歳児歯科健診 95.5% 3歳児健診 97.1%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告書	
	6 子どものかかりつけ医を持つ親の割合	医師 97.5% 歯科医師 49.3%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	7 #8000番を知っている親の割合	64.8%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	8 子どもの生活リズム	7時までに起床する児の割合	67.2%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)
		21時までに就寝する児の割合	31.2%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)
	9 主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度	62.0%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	10 天気の良い日は、保育園・幼稚園で1日60分以上外遊びする児の割合	28年度調査予定	増加	増加	今後調査予定	
	11 虫歯のない3歳児の割合	75.26%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告書	
12 仕上げ磨きをする親の割合	97.80%	増加	増加	2歳児歯科健診票集計		
基盤課題 B	1 10代の人工妊娠中絶率	H26年栃木県 5.3%	減少	減少	栃木の母子保健	
	2 10代の自殺死亡率(人口10万対)	H26年栃木県 10歳から14歳 1.1 15歳から19歳 4.3	減少	減少	人口動態統計	
	3 小中学生の飲酒率	H28年 小学生 13.6% 中学生 10.8%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	4 小中学生の喫煙率	H28年 小学生 1.1% 中学生 0.6%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	5 児童・生徒における肥満傾向児の割合	H28年 小学校 12.2% 中学校 10.8%	減少	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	6 児童・生徒における痩身傾向児の割合	H28年 小学校 1.1% 中学校 1.8%	減少	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	7 朝食の欠食状況	H28年 小学生 9.0% 中学生 11.9%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	8 12歳(中学1年生)の永久歯の1人当たり平均虫歯数	H26年 1.2本	減少	減少	大田原市フッ化物洗口事業報告	
	9 歯肉に炎症のある生徒の割合	H23年 25.7%	減少	減少	健やか親子21(第2次)	

指標名		ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインの調査
基盤課題 C	1 妊娠・出産について満足しているものの割合	4か月児健診 81.5%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)
	2 この地域で子育てをしたいと思う親の割合	4か月児健診 97.4% 1歳6か月児健診 96.6% 3歳児健診 97.0%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	3 主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合	4か月児健診 93.4%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑧)
	4 育児期間中の両親の喫煙率	<母> 4か月児健診 5.6% 1歳6か月児健診 8.1% 3歳児健診 13.0% <父> 4か月児健診 46.9% 1歳6か月児健診 56.1% 3歳児健診 45.7%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
重点課題 ①	1 子どもを虐待していると思う親の割合 (いずれか1つでも当てはまった人の数)	4か月児健診 12.0% 1歳6か月児健診 19.8% 3歳児健診 43.3%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	2 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健診 98.8% 2歳児歯科健診 95.5% 3歳児健診 97.1%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告
	3 乳幼児揺さぶられ症候群を知っている親の割合	98.90%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診問診票から)
	4 産後ケアの実施	未実施	実施	委託医療機関の増加	大田原市保健事業実績報告
重点課題 ②	1 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	4か月児健診 82.4% 1歳6か月児健診 75.1% 3歳児健診 70.0%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	2 育てにくさを感じている親の割合	4か月児健診 19.0% 1歳6か月児健診 26.8% 3歳児健診 35.4%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	3 育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	4か月児健診 86.9% 1歳6か月児健診 82.3% 3歳児健診 84.4%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	4 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	4か月児健診 90.1% 1歳6か月児健診 93.2% 3歳児健診 84.9%	増加	増加	すこやか親子アンケート(健診問診票から)